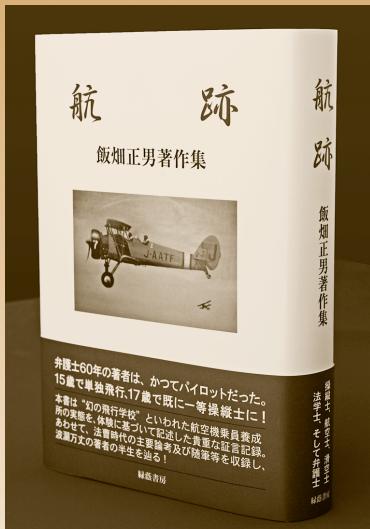


航 跡

飯畑正男著作集

弁護士60年の著者は、かつてパイロットだった。
15歳で単独飛行、17歳で既に一等操縦士に！

本書は“幻の飛行学校”といわれた航空機乗員養成所の実態を、体験に基づいて記述した貴重な証言記録。あわせて、法曹時代の主要論考及び隨筆等を収録し、波瀾万丈の著者の半生を辿る！



定価一本体3,200円+税
四六判・490頁・上製・カバー装
ISBN978-4-89774-331-8

緑蔭書房

道 程

松本一郎著作集

砂川事件の担当判事であった著者の二・二六事件及び陸軍の法規に関する論考を収録

「伊達裁判長の思い出」「砂川事件余話」「幼年学校の教育」「古沢先生という人」「愚直の人」など貴重なエピソードを綴った珠玉のエッセイも合わせて所収！

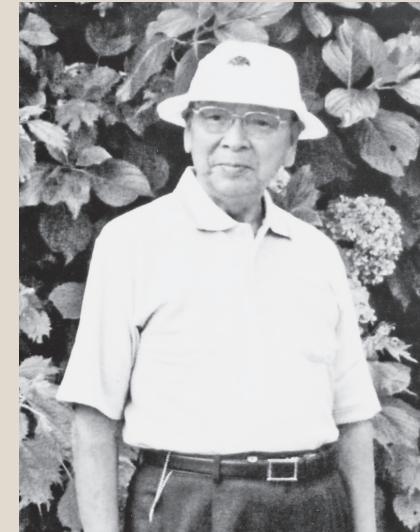


定価一本体3,200円+税
四六判・400頁・上製・カバー装
ISBN978-4-89774-330-1

緑蔭書房

〒173-0004 東京都板橋区板橋1-13-1
電話03(3579)5444 FAX03(6915)5418

●下記の書店にお申し込み下さい。



著者紹介

昭和三年（一九二八年）福島県生まれ。

昭和二〇年六月、古河高等航空機乗員養成所普通科操縦学科を卒業、一等操縦士免許を取得。同年七月、陸軍航空輸送部（師第三四二〇一部隊）に入隊。同年八月、終戦により復員。

昭和二八年、中央大学法学部を卒業。その後、司法修習生、東京家庭裁判所調停委員、日本弁護士連合会常務理事、第一東京弁護士会副会長、司法研修所教官、司法修習生考試委員会考査委員・考試委員、東京都地方労働委員会公益委員等を歴任。

平成一〇年、勲四等旭日小綬章。

平成一八年、日本弁護士連合会より弁護士在職五〇年の表彰を受ける。主な著書に「弁護士法第二十三條の一——その実証的研究」「家族と遺産の法律常識」「照会制度の実証的研究」「家族と相続の法律常識」など。

はしがき

操縦士、航空士、滑空士／法学士、そして弁護士

第一部

1 飛行学校時代

航空機乗員養成所始末記—その生い立ちから終焉まで

噫！ 航空機乗員養成所

尽きぬ思い出

私の新潟時代

岡山時代の思い出

足跡—米子の六ヵ月

操縦日誌抄

民間飛行士も突入した

2 在野法曹時代

弁護士としての歩み

依頼者の不満に答える—自省的弁護士論

照会制度の構造と機能



昭和18年12月頃(著者15歳)

弁護士法に基づく照会制度と公務所等の回答義務
宅地建物取引業者のした法律事務の取扱と弁護士法七二条
三百代言論余滴

会務雑感 弁護士会の副会長として

湯島日誌抄—民事弁護教官の一年

3 司法研修所教官時代

雑感 労働委員会公益委員の回想

4 都労委時代

湯島日誌抄—民事弁護教官の一年

第一二部

1 名曲を聴く

2 ゴルフ私記

あとがき

著者年譜

著者目録



著者近影(法律事務所にて)

知られざる“航空機乗員養成所”の実態を、数々の論考や随筆等により浮き彫りにする。戦後、法曹界に生涯を捧げた著者が綴った、航空機乗員養成所に関する貴重な記録と在野法曹の課題と実情。

操縦士、航空士、滑空士 法学士、そして弁護士

一 彼は、そのとき一七歳、明日の命も知れぬ特攻要員だった。同期の五〇名はすでに特攻隊員として敵艦に突つ込む猛訓練中であった。しかし、彼もその同期生も陸海軍で育てられたパイロットではない。もともとは民間航空のパイロットたるべく長い期間をかけて、大事に育てられた少年たちである。昭和一〇年代の初期、亜欧連絡飛行で名を挙げた神風号の飯沼飛行士や、国産の双発機「ニッポン」号で世界一周の快挙を成し遂げた中尾機長のような先輩に続けてばかり、大空にあこがれた少年たちは、あの戦時下、通信省航空局が開設した航空機乗員養成所に入り、猛訓練を受けたのであったが、卒業後ことと志と違い、軍に召集され、一億総特攻の名の下、風前の灯のような境涯におかれることになる。

二 彼は、旧制の県立中学二年を終えるや、一〇倍以上の難関を突破し、航空機乗員養成所に入った。生徒舎に起居する軍隊式日課で、衣食住すべてが官費、少額ながら手当まで支給される。最初の一年はグライダーの訓練だった。初級機(プライマリー)に続いて中級機(セカンダリー)を履修、二年目の初

注文書

帖合(貴店名)

注文数 冊

摘要 書名 発行

航 跡 — 飯 畑 正 男 著 作 集

ISBN978-4-89774-331-8

本体3200円

受注 年 月 日

住所氏名

様